

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05726

研究課題名（和文）国際バカロレアに対応する教員養成の国際比較研究

研究課題名（英文）Comparative Research on Teacher Education for International Baccalaureate

研究代表者

窪田 眞二（SHINJI, KUBOTA）

常葉大学・教育学部・教授

研究者番号：80170033

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、国際バカロレア（以下：IB）のディプロマ・プログラム（DP）に対応した教員養成課程について、国際比較研究を実施した。2020年現在、日本が今後、IBを導入、発展させ、グローバル人材を養成していく際、単に国際的に実施されているIB教育をそのまま受容し、実施していくのではなく、これまでの日本の教育経験や教員養成で蓄積してきた豊富な知見を踏まえて、日本のIB教育を発展させていく必要がある。本研究の成果の1つとして、IB教育の成果を測る研究フレームワークを構築することが出来、今後、実証的にIB教育の質を評価し、実践事例を批判的に振り返る研究に対する学術的な貢献を果たしたと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の研究成果は「DPを教える教員を如何に養成するか」という、カリキュラム研究の側面と「輩出した教員が如何に学校現場でグローバル人材の育成に貢献しているか」というIBに対応する教員養成の成果に関する実証研究の側面を有した。また、研究過程を通じてIBの教員養成研究フレームワークの構築に寄与するとともに、実践的にも「日本版IB教育の創生」に貢献した。

研究成果の概要（英文）：We conducted comparative educational research on teacher education for international Baccalaureate. Japan already has plenty experience and knowledge on teacher education. The purpose of this research was how merge IB education and Japanese education on teacher education and contribute to develop Japanese IB education in Japan. As a result, we set the teacher education research framework for international Baccalaureate to measure the quality of IB education, which could evaluate IB education and reflect on IB practice.

研究分野：教育行政

キーワード：IB教育の創造 教員政策 自省する教員 国際比較 陶冶財

1. 研究開始当初の背景

国境を越えた人の移動の爆発的増大、経済の国際的相互依存関係の深化、情報通信技術の長足の進歩等、社会や経済のグローバル化が進展し、国際社会で活躍出来る人材の育成がより一層、求められている。グローバル人材の育成は日本だけに限ったことではなく、世界の教育界が共有する課題であり、近年、国際的に重要なテーマとなっている。そして、このような状況を受け、グローバル人材に必要とされる資質や教育目標に関しては、21世紀型学力やPISA型学力の研究など、研究蓄積が一定程度、進んでいる。しかしながら、当該資質を学校現場で育成するために如何なる教員養成が必要となるのか、その教員養成課程の研究に関しては、実証的な研究蓄積が不足している。

本研究で対象とするIB教育に関しても、IB教育自体のカリキュラム研究や教育効果に関する研究は、国内外である程度研究蓄積が確認される(例えば、Peterson 2001, 相良 2007 等)。しかし、当該カリキュラムを如何に教えるか、また、如何なる教員を養成すれば良いのか、という教員養成課程の研究に関しては、北米を対象にした調査(Culross, R.et.al 2011)等が確認されるが、十分な実証研究の蓄積があるとは言えない。特に、IB教育の特徴として生徒の「創造性」や「批判的思考力」の養成が求められているが、これらの教育目標の重要性を教員が理解することが出来ても、如何に養成するか、という点については困難が伴いやすい。さらに、IB自体が日本で発祥したのではなく、欧米中心にこれまで発展してきた経緯もあり、日本での導入には様々な困難が生じることが予想される。

日本は今後「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」に基づき、IB認定校を2018年までに200校に大幅に増加させることを目標としているが、これまでIBの教員養成課程に関する国内の研究は進んでいない。日本が今後、IBを導入、発展させ、グローバル人材を養成していく際、単に国際的に実施されているIB教育をそのまま受容し、実施していくのではなく、これまでの日本の教育経験や教員養成で蓄積してきた豊富な知見を踏まえて「日本版のIB教育」を創造していく必要がある。その根幹を成す日本版のIB教員養成課程の形成、発展に貢献する本研究をこの時期に実施する必要性を高く認識し、本研究を着想した。

2. 研究の目的

本研究は、国際バカロレア(以下:IB)のディプロマ・プログラム(DP)に対応した教員養成課程について国際比較研究を行うものである。研究目的は「DPを教える教員を如何に養成するか」という、カリキュラム研究の側面と「輩出した教員が如何に学校現場でグローバル人材の育成に貢献しているか」というIBに対応する教員養成の成果に関する実証研究の側面を有する。現地調査の対象は、各地域においてDPを積極的に導入している6カ国(米国、カナダ、NZ、マレーシア、英国、オランダ)と日本の事例校とし、比較教育学の手法を用いて上記2つの課題を学術的に明らかにしていく。また、研究過程を通じてIBの教員養成研究フレームワークの構築に寄与するとともに、実践的にも「日本版IB教育の創生」に貢献することを計画した。

3. 研究の方法

(1) IB導入国の教員養成課程の実態と形成過程に関する現地調査

第1次調査では、米国、カナダ(北米地域)、オーストラリア、マレーシア(アジア・太平洋地域)、英国、トルコ(欧州)の6カ国におけるIB教員養成の実態について現地調査を実施した。当該6カ国は、いずれも各地域においてDPの導入を積極的に行っている国である。現地調査では、IBの教員養成カリキュラムや試験の実態と課題を把握するだけでなく、IBの教員養成課程の形成過程に関しても合わせて把握した。

(2) IBの教員養成研究における新たな研究フレームワークの検討、構築

上記(1)の調査結果を基に、IBの教員養成研究フレームワークを検討した。本研究での結果だけでなく、これまで蓄積されている教員養成研究の成果を援用し、IBに対応する教員養成研究の新たな研究フレームワークを提示することを試みる。その際、国内の研究者だけでなく、海外の研究者と協働で分析、検討を実施する。本研究結果は日本国内のみならず、国際的な学術的貢献になることが期待される。

(3) IBの教員養成がもたらす学習成果に関する実証研究

上記の6ヶ国の中等学校(DP実践校)において現地の協働研究者と第2次調査を実

施した。調査結果を基に IB に対応した教員養成課程で輩出した教員が、如何に学校現場でグローバル人材の育成に貢献しているのか、実証的に明らかにしていく。その際、比較教育学の分析手法を用いて、6 カ国で同様のフレームワークを適用させ、実証的な調査、分析を実施した。対象とする学習成果は IB が目指す項目(探究心や挑戦する心)で評価されるものを中心とするが、非認知的学力(Non cognitive skills)が中心となるため、アプトプットだけでなく、その学習過程にも焦点を当てた。

4 . 研究成果

本研究では、協働研究者の協力の下、国際バカロレア(以下:IB)のディプロマ・プログラム(DP)に対応した教員養成課程について、国際比較研究を実施した。研究目的は「DPを教える教員を如何に養成するか」という、カリキュラム研究の側面と「輩出した教員が如何に学校現場でグローバル人材の育成に貢献しているか」という IB に対応する教員養成の成果に関する実証研究の側面を有した。また、研究過程を通じて IB の教員養成研究フレームワークの構築に寄与するとともに、実践的にも「日本版 IB 教育の創生」に貢献した。

具体的な成果として、各研究分担者によるご尽力により、多数の研究発表、論文の発表がなされたことは元より、日本 IB 教育学会を創設し、日本版 IB 教育の創成に貢献することが出来た。また、本科研の成果として、日本の IB 教育導入過程における受容実態について、書籍を刊行することが決定された。これまでを IB 教育の「導入期」とすると、今後は「発展期」に入る。2020 年現在、日本が今後、IB を導入、発展させ、グローバル人材を養成していく際、単に国際的に実施されている IB 教育をそのまま受容し、実施していくのではなく、これまでの日本の教育経験や教員養成で蓄積してきた豊富な知見を踏まえて、日本の IB 教育を発展させていく必要がある。本研究の成果の1つとして、IB 教育の成果を測る研究フレームワークを構築することが出来、今後、実証的に IB 教育の質を評価し、実践事例を批判的に振り返る研究に対する学術的な貢献を果たしたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 江里口歡人	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 日本におけるIB教育の展望と課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 23-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 844
2. 論文標題 「イーストベイ アジア青少年センター-East Bay Asian Youth Center EBAYC）:放課後プログラムによる青少年の健全育成」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 8月号
2. 論文標題 「学校における放課後活動の課題とは - 保育と教育におけるニーズに応えるために」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『児童心理 臨時増刊』（「放課後児童クラブ」の可能性）	6. 最初と最後の頁 65-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 11月号
2. 論文標題 「生涯学習社会の実現に求められるもの」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『Business Labor Trend』	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 402
2. 論文標題 「国際バカロレアの今後の展開」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『文部科学省教育通信』	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 847
2. 論文標題 「スマート・プログラム：低所得家庭の子どもに大学進学への夢を」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『社会教育』	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 3月号
2. 論文標題 「『壊れた社会を繕い直す』民衆教育活動」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『社会教育』	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 no. 844号
2. 論文標題 イーストベイ アジア青少年センター-East Bay Asian Youth Center EBAYC):放課後プログラムによる青少年の健全育成	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 80-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 No.402
2. 論文標題 国際バカロレアの今後の展開	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩崎久美子	4. 巻 no.847
2. 論文標題 スマート・プログラム：低所得家庭の子どもに大学進学への夢を	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会教育	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Petcharee. R., Kawaguchi.J and Ogawa.K	4. 巻 vol. 32
2. 論文標題 Decentralization Policy in Public Secaondary school in Thailand: A Focus on Finance and Administration in Chiang Mai	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Social Science and Humanities	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 川口純、江幡知佳	4. 巻 第41巻第2号
2. 論文標題 日本における国際バカロレア教育の受容実態に関する一考察：ディプロマプログラム (DP) に着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教育学系論集	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口純	4. 巻 第6巻
2. 論文標題 マラウイの「無資格教員」に関する一考察：誰が、なぜ、雇用されていたのか	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 アフリカ教育研究	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川口純	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 国際バカロレア教育の導入過程における一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文部科学教育通信	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多舞	4. 巻 Vol. 23
2. 論文標題 国際バカロレアMYP音楽の授業から考察するアクティブ・ラーニング	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 国際理解教育	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 本多舞	4. 巻 -
2. 論文標題 国際バカロレアの理念からみるグローバル人材育成の意義 クルト・ハーンに着目して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 平成28年度筑波大学教育行財政学研究室紀要	6. 最初と最後の頁 69-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 国際バカロレア・プログラムの導入の課題
3. 学会等名 聖隷学園（静岡・浜松）における講演（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 日本の現行の教育と国際バカロレアの差異について
3. 学会等名 広島大学大学院教育学研究科における講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 日本での国際バカロレア導入について
3. 学会等名 慶北大学教育大学院（韓国・大邱）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 江幡知佳、川口純、岡村拳
2. 発表標題 国際バカロレア（IB）を活用した大学入試に関する研究
3. 学会等名 日本国際バカロレア教育学会第3回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江幡知佳
2. 発表標題 日本の大学教育における国際バカロレア (IB) の活用に関する研究 IB入試実施大学とIB修了生へのインタビュー調査から
3. 学会等名 日本教育制度学会第26回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菊地かおり
2. 発表標題 国際バカロレア (IB) の教育プログラムの導入と『グローバル人材』育成: 共生か、競争か
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江里口歡人
2. 発表標題 国際バカロレアと研究活動
3. 学会等名 国際バカロレア教育シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江里口歡人
2. 発表標題 国際バカロレア・プログラムと日本の教育の展望
3. 学会等名 日本医学教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 大学から見た国際バカロレア教育について
3. 学会等名 神奈川県教育委員会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 国際バカロレアの現状
3. 学会等名 広島大学大学院教育学研究科（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 IB教育とその教師養成
3. 学会等名 早稲田大学教育学研究科 IB教員養成研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 江里口 歡人
2. 発表標題 国際バカロレア教師養成の抱える課題
3. 学会等名 広島大学大学院教育学研究科（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩崎久美子
2. 発表標題 教育学とエビデンス
3. 学会等名 日本体育学会第67回大会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 岩崎久美子
2. 発表標題 公立学校への国際バカロレア導入：日本と諸外国の動き
3. 学会等名 多元視覚下的 I B 課程対話研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kando ERIGUCHI
2. 発表標題 A Comparison of Critical Thinking Skills of Japanese Students in an IB Course and a Traditional Japanese Course using the Critical Disposition Scale
3. 学会等名 World Congress of Comparative Education Societies
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川口純
2. 発表標題 マラウイにおけるインクルーシブ教育の導入と展開：教員養成の現状と課題を中心に
3. 学会等名 第52回日本比較教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mai HONDA
2. 発表標題 What you need to succeed as IB school in Japan
3. 学会等名 IB Global Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chika EBATA
2. 発表標題 International Baccalaureate in Japan, Focusing on the Problems Recognized by IB Teachers
3. 学会等名 IB Global Conference
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江幡知佳
2. 発表標題 米国における国際バカロレア中等教育プログラム導入過程の研究 「包摂性(Inclusiveness)」を中心に
3. 学会等名 日本国際バカロレア教育学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 江幡知佳
2. 発表標題 国際バカロレア中等教育プログラムの研究 米国における受容を中心に
3. 学会等名 グローバル人材育成教育学会第3回関東支部大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 興津妙子・川口純	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 363
3. 書名 教員政策と国際協力 未来を拓く教育をすべての子どもに	

1. 著者名 岩崎久美子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 436
3. 書名 国際バカロレアの挑戦 グローバル時代の世界標準プログラム	

1. 著者名 岩崎久美子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 144
3. 書名 豊かな人生のための読書と図書館活用	

1. 著者名 岩崎久美子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 173
3. 書名 経験資本 - 首都圏大学生949人の大規模調査結果	

1. 著者名 岩崎久美子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 pp.33-43、pp.79-89、pp.135-144
3. 書名 『図書館と学校が地域をつくる』	

1. 著者名 岩崎久美子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 pp.11-21、pp.113-126、pp.147-173
3. 書名 『経験資本 - 首都圏大学生949人の大規模調査結果』	

1. 著者名 Kazuhiro Yoshida, Kawaguchi Jun, Ogisu Takayo	4. 発行年 2017年
2. 出版社 KEDI	5. 総ページ数 pp.87-109
3. 書名 Research on Implementation Plan of Sustainable Development Goals (SDGs): Focusing on Education	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩崎 久美子 (IWASAKI KUMIKO) (10259989)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	
研究分担者	江里口 歓人 (ERIGUCHI KANDO) (90266255)	玉川大学・教育学部・教授 (32639)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	川口 純 (KAWAGUCHI JUN) (90733329)	筑波大学・人間系・助教 (12102)	
研究分担者	佐藤 博志 (SATO HIROSHI) (80323228)	筑波大学・人間系・准教授 (12102)	